

別府市観光ヒアリング調査報告

著者	石橋 太郎, 狩野 美知子, 野方 宏
雑誌名	静岡大学経済研究
巻	16
号	1
ページ	17-30
発行年	2011-07-29
出版者	静岡大学人文学部
URL	http://doi.org/10.14945/00006655

研究ノート

別府市観光ヒアリング調査報告¹

石橋 太郎・狩野美知子・野方 宏

はじめに

静岡大学人文学部経済学科の教員からなる観光研究プロジェクト・チームは、これまで伊豆地域を中心とした観光調査・研究を行ってきたが、今回は視点を変え、別府市を対象に下記の3カ所でヒアリング調査を実施した。かつては「東の熱海、西の別府」と謳われ、熱海市と別府市はいずれも団体旅行客を中心に、我が国を代表する温泉地としてにぎわってきたことから、伊豆地域、とりわけ熱海市との比較対象として別府市が適していると考えたからである。なお、本稿は別府市の観光に関する調査報告にとどめ、両市の比較に関する研究は別の機会にゆだねる。

ヒアリング先と日時は、以下のとおりである。

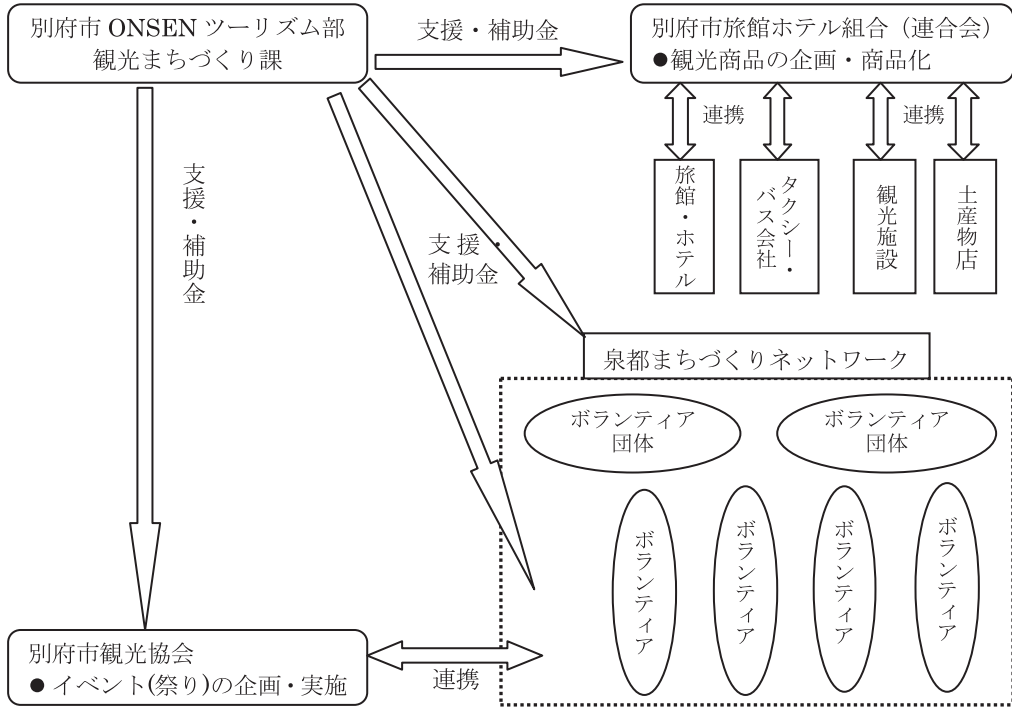
- 別府市観光協会
日 時：2011年3月1日(火) 15:25～17:00
応対者：総務部 御手洗 敦氏
- 別府市旅館ホテル組合（連合会）
日 時：2011年3月2日(水) 10:00～11:15
応対者：事務局長 堀 精治氏
- 別府市役所ONSENツーリズム部観光まちづくり課
日 時：2011年3月2日(水) 13:00～14:30
応対者：主査 藤本 智美氏

別府市の場合、これら三者と市民が一体となって観光振興に取り組んでいる。図1は、別府市における観光振興の取り組みに関する三者と市民のそれぞれの関係・役割を簡略化したものである。おおまかにいえば、別府市旅館ホテル組合は主に観光商品の企画・商品化を、別府市観光協会はイベント・祭り系の企画・実施を、別府市ONSENツーリズム部観光まちづくり課の支援・補助金

¹ 今回のヒアリング調査を含めた2010年度の観光研究プロジェクトに対し、静岡大学人文学部より研究資金の助成を受けた。また、ヒアリング調査に協力いただいた別府市観光協会御手洗敦氏、別府市旅館ホテル組合（連合会）事務局長堀精治氏および別府市役所ONSENツーリズム部観光まちづくり課藤本智美氏にお礼申し上げる。

を得て実施している。なお、泉都まちづくりネットワークとボランティアとして参加する市民の役割については、後述する第4節(4)で述べる。

図1. 別府市における観光振興の枠組み



出所：ヒアリング調査の内容より筆者作成

ヒアリング調査の実施にあたり、事前にこれまでと同様の調査項目を送付した。ヒアリング調査先が行政と民間といった立場の違いから、質問項目に若干の相違はあるものの、三者からのヒアリング内容も重なる部分がある。本稿では、これらの内容を概ね以下のような項目にまとめ、これに沿った形で述べていく。

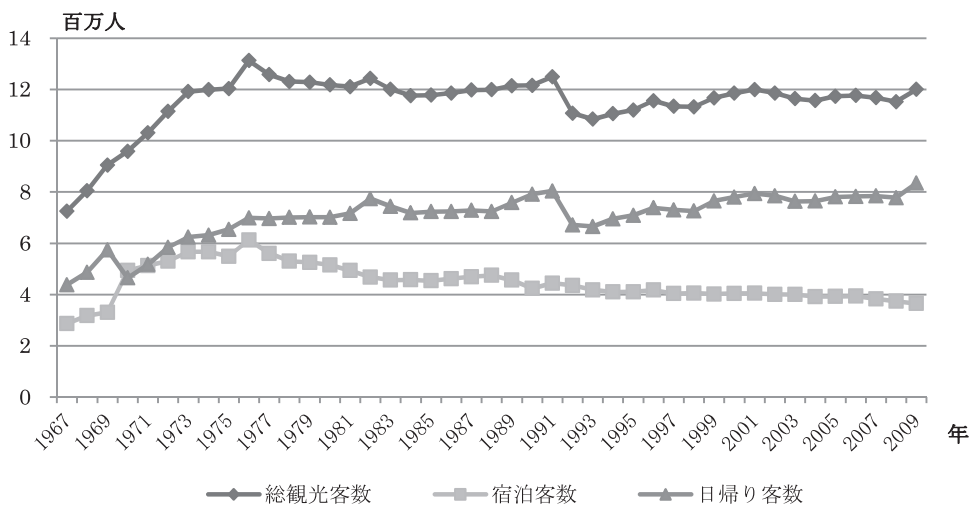
1. 最近の観光動向
2. 観光振興の取り組み
3. 広域観光
4. その他（外国人観光客，旅館再生など）

1. 最近の観光動向

別府市は、別府八湯といわれる8つの温泉郷（別府、浜脇、鉄輪、明礬、観海寺、亀川、柴石、堀田）をもち、源泉数、湧出量ともに全国一²を誇る温泉地である。また、温泉は、量だけではなく、世界で11種類ある揭示用泉質のうち、放射能泉を除く10種類³を有し、泉質の数においても全国一である。別府市は、この豊富な温泉に加えて、高崎山自然動物園、アフリカン・サファリ（自然動物公園）、地獄めぐり、うみたまご（水族館）などの観光施設も有し、人口120,069人（2011年3月31日現在）のまちに年間約1,200万人（2009年）の観光客が訪れている。

別府市における観光客数⁴のピークは1976年の13,121,962人である。その後徐々に減少するものの、1991年までは1,200万人前後を維持している。1992年には1,107万人、1993年には1,084万人と急減するが、そののちは再び増加に転じ、1996年以降は1,100万人台後半で横ばいとなっている。2009年は11,999,033人で、この値はピーク時の1割減となっている。宿泊客数のピークは、同じく

図2. 別府市における観光客数の推移



出所：別府市『平成21年観光動態要覧』

² 源泉数2,508孔、湧出量87,616ℓ／分(2010年3月31日現在)。

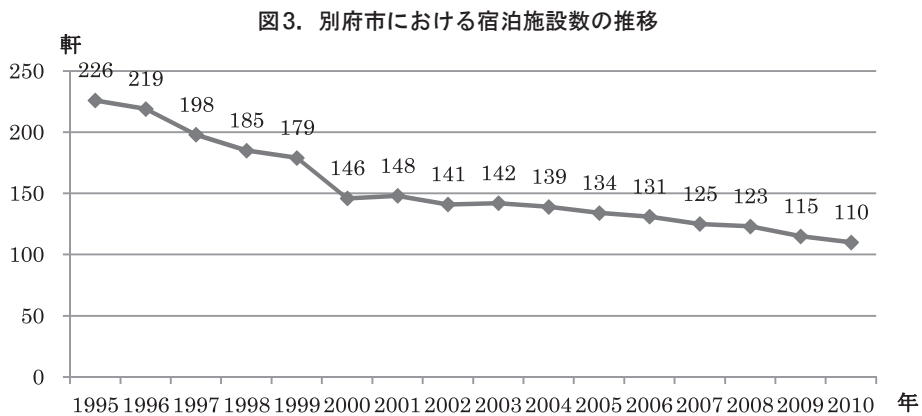
³ 単純温泉、二酸化炭素泉、炭酸水素塩泉、塩化物泉、硫酸塩泉、含鉄泉、含アルミニウム泉、含銅一鉄泉、硫黄泉、酸性泉。

⁴ 本稿では、別府市ONSENツーリズム部観光まちづくり課から入手した資料をもとに、観光客数を捉えているが、これは実数ではなく推計値となっている。推計の方法は、①別府市への交通機関による入込数(実数)に観光目的比率をかけることにより総観光客数を算出する。②市内各宿泊施設に依頼した調査票を回収し、そのうち前年及び当年共にデータを回収できた施設の伸び率を算出し、前年の確定宿泊客数(推計値)に伸び率をかけることにより宿泊客数を算出する。③日帰り客数は、総観光客数から宿泊客数を差し引くことにより算出する。(別府市ONSENツーリズム部観光まちづくり課『平成21年観光動態要覧』)

1976年の6,131,523人であるが、こちらは2009年まで、ほぼ一貫して減少傾向にある。2009年には3,652,345人となっており、この値はピーク時の6割である。一方で、1976年には700万人であった日帰り客数は、1991年までほぼ一貫して増加傾向にあり、1991年には8,041,235人となった。その後、1992年から3年間は600万人台後半まで落ち込むが、その後再び回復し、2009年には8,346,658人と、過去最高となっている。【図2参照】⁵。別府市の観光客数は、全体に減少幅が少なく、バブル経済及びバブル経済崩壊の影響は緩やかなものとなっている。

観光客の居住地を2009年度で見ると、福岡県25%、大分県内21%、その他の九州16%と九州内が6割を占めるが、その一方で関東11%、近畿8%と比較的遠方からの観光客もいる。これは、スカイネットアジア航空が東京⇄大分間の航空運賃に割引を設定していること、古くから大阪⇄別府間を関西汽船が運航していることなどが理由として考えられ、多様な交通機関で集客されている様子が見えてくる。外国人観光客は、韓国を中心として年間16万人が訪れ、団体客も多い。なお、外国人観光客については、後述する第4節(1)で述べる。

宿泊施設数の推移は、入手できたデータが1995年以降となっているが、1995年に226軒あった宿泊施設は、2010年には110軒と半減している【図3参照】⁶。一方で、客室数100室以上の大規模旅館は、1995年に6軒であったが、2005年以降は9軒と増加している。なお、宿泊施設の倒産、再生については、後述する第4節(2)で述べる。



出所：別府市旅館ホテル組合資料

⁵ 図2の元になった数値については、付表1参照。

⁶ 別府市旅館ホテル組合に加盟している施設数。

2. 観光振興の取り組み

(1) 別府市観光協会を中心とした取り組み（イベント・祭り系）

別府市観光協会が事務局として取り組んでいる事業の1つが、「別府八湯温泉道」⁷である。「別府八湯温泉道」は、2003年2月に始まり、別府市内の8つの温泉郷の中から選ばれた約140湯のうち、88湯を巡るスタンプラリーである。88個のスタンプがそろえば、別府八湯温泉道認定の温泉道名人になれる。温泉道には、初段から十段、そして名人までの段位があり、申請をすれば段位認定が行われ、認定タオルと認定状がもらえる。現在、月平均100人程度、年間では1,000人以上が参加している。2010年の名人申請者は、432人であった。この「別府八湯温泉道」には、東京からのリピーターもおり、ブログなどを通じて遠方からの参加者も増えている。

別府市観光協会は、年間を通じて実施されている「別府八湯温泉道」以外に、各季節のイベントもサポートしている。春には、「別府八湯温泉祭り⁸」と「べっふ鶴見岳一気登山大会⁹」の事務局として、イベントの後援を行っている。「別府八湯温泉祭り」は、市内約100カ所の市営・区営温泉の3日間無料開放、地獄めぐり8カ所無料開放、湯けむり巡回バス・タクシーの運行、湯けむりお接待、扇山火まつり、各地域のまつり、駅前通りイベント¹⁰等が企画され、延べ10万人程が参加している¹¹。「べっふ鶴見岳一気登山大会」は、全長12kmのフルコースには、いだてん天狗タイム・レース、のびのびさくらウォーク、全長8kmのハーフ・コースには、GO.GO.GO.ハーフ・ウォークが用意されている。韓国からの参加者も多い。

夏には「別府夏の宵まつり納涼花火大会」（7月下旬）を、冬には「べっふクリスマスHANABIファンタジア」（12月下旬）をサポートし、冬の花火大会には2日間で20万人程の来場がある。秋には、「BEPPUダンス・フェスタ」（10月）をサポートし、この「BEPPUダンス・フェスタ」には、大分県内のダンス・チームが30チーム参加する。

(2) 別府市旅館ホテル組合を中心とした取り組み（商品企画等）

別府市旅館ホテル組合は、大分県や別府市が誘致した国体やインターハイなどの数千名規模の団体客を組合が直に受け入れ、各旅館・ホテルへ配宿している。個人客については、楽天トラベル、じゃらんといった旅行会社が販売手数料の値上げを要求してきていることもあり、宿泊施設

⁷ 「別府八湯温泉道」の詳細については、<http://onsendo.beppu-navi.jp/>（アクセス日：2011年4月20日）を参照。「温泉道」には、「表泉家」と「裏泉家」が存在する。「表泉家」は別府市旅館ホテル組合が発行する『温泉本』に掲載（正式に登録）されたもので、「裏泉家」とは温泉を一般家庭に引湯されたもので、『温泉本』に掲載されていないものをさす。

⁸ 4月1日から3日間開催。

⁹ 2011年は4月に第24回大会を開催した。

¹⁰ 別府八湯献湯祭・ふれあい踊り・湯けむり総パレード・湯かけまつり・お楽しみ抽選会等。

¹¹ 2011年の「別府八湯温泉祭り」は、3月11日の東北地方太平洋沖地震により、多くが自粛、中止されている。

の予約がインターネットで直接できるように、組合ホームページを変更する作業も進めている。ただし、ある程度の規模の団体誘客のためには、どうしても「旅行会社とのタイアップは必要であり、組合は個人客のきめ細かい手配を請け負うという形で棲み分けをする」と考えている。この個人客の細かい手配を請け負うために、組合では、6年前に第3種旅行業の登録を行い、オプション・ツアー（観光商品）の企画を可能とした。

例えば、「宿泊客を増やすためには、夜の観光を充実させる必要がある」ことから、夜型観光商品の開発・販売を行っている。各旅館から参加金（2万から4万円）を徴収し、夏にナイト・バスを運行している。昨年は、5,000名程度が参加している。ナイト・バスに加えて、貸切タクシーを利用して市内の湯けむりライト・アップ、夜景などを楽しめるナイト・タクシーの企画もある。他にも夜の観光を充実させるため、浅見神社の協力により、裏山に人工川を作り蛍の育成事業を行っている。鉄輪地区の温泉神社にも同様の計画があり、「ホテルが飛ぶ別府」というイメージ作りを検討中である。他方、うまくいかなかった企画もある。例えば、昨年は、冬にもイルミネーション・ツアーを企画したが、雪のためキャンセルが続出したことから、今後は中止するとのことであった。

また、竹瓦地区では、15軒の宿泊施設が交代で路地裏散歩のボランティア・ガイドを行っており、組合はこれをサポートしている。竹瓦地区は、九州観光推進機構による「九州さるく」¹²という取り組みの中で、大分県を代表する地区でもある。

他の事業として、宿泊施設のフロントでの外国人客とのトラブルを避けるため、フロントと客で簡単な機器をもち、ワンタッチ（指さし）で会話ができる通訳装置を開発している。既存の通訳装置を改造したもので、安価（24,000円）な提供を考えている。パソコンでの同時通訳装置も、開発中とのことである。ワンタッチ会話装置は、フロント用だけではなく館内用、観光用のものも検討中であり、大分県と別府市に半額補助を働きかけている¹³。

組合は、温泉に関する教育にも力を入れている。別府市にある温泉の質、客のためになる温泉の入り方・楽しみ方のマニュアルを作り、これを使用して3月には旅館関係者150名を集めた講習会を開いている。また、2005年の温泉法の改正を機に、30軒程の中規模旅館が参加して「温泉カルテ」の作成を始めた。「温泉カルテ」とは、源泉だけではなく浴槽内の温泉成分も分析し、細かな情報を提供するものである¹⁴。温泉に関する教育に加えて、おもてなしマニュアル、障害者対応マニュアル、クレーム対応マニュアル、暴力団対応マニュアルも作成し、宿泊施設に配布をしている。

¹² 「九州さるく」の「さるく」とは、「散策する」、「目的もなく歩く」などを表す九州の方言である。「九州さるく」については、<http://www.welcomekyushu.jp/saruku/index.html>（アクセス日：2011年4月20日）を参照。

¹³ この装置については、長崎県平戸市、佐賀県嬉野市の観光地がその開発を待っている。

¹⁴ 「温泉カルテ」の詳細な情報は、<http://www.beppu-navi.jp/karte/karte01.html>（アクセス日：2011年4月20日）を参照。

組合では、別府リバイバル新婚旅行推進協議会主催のもと、別府リバイバル新婚旅行記念「純金カード・プレゼント」キャンペーンも行っている。2010年4月29日から2011年3月21日の期間中に対象13ホテルに男女のカップルで4泊し、組合に申請すると受け取ることができる。また、これとは別に、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合が、2011年3月の九州新幹線開通対策として、2010年12月1日から2013年11月30日までの3年間、「純金カード・プレゼント」キャンペーンを実施している¹⁵。こちらはキャンペーン期間中、対象宿泊施設に2人以上で5泊し、同組合に申請することにより受け取ることができる。

(3) 別府市役所を中心とした取り組み

別府市ONSENツーリズム部観光まちづくり課¹⁶は、外国人誘客、スポーツ観光誘致、コンベンション誘致に力を入れている。2年前に開催されたAPEC（アジア太平洋経済協力）では、大分県と共に事務局となって誘致活動を行い、大分県や別府市の知名度向上に一定の役割を果たした。

別府市の代表的な観光への取り組みとしては、2つのものがある。1つは、リバイバル旅行¹⁷である。かつて、別府市は修学旅行生¹⁸や新婚旅行客でにぎわったが、こういった人たちをターゲットとし、再び別府を訪れてもらおうというものである。もともと別府市では、別府市民を対象に「別府市民の船」という企画を行っていたが、2009年度にこの企画を自分達の「リバイバル修学旅行」とし、当時と同じような「しおり」を作成し、別府市民がかつて修学旅行として訪れた関西地域を旅行した。2回目の2010年度は、参加者からの発案で、参加者全員が別府市のハッピーを着て、関西地域で修学旅行のリバイバルを行うとともに、別府市へのリバイバル旅行誘客の宣伝も行った。なお、前項で述べたように、リバイバル新婚旅行促進のための「純金カード・プレゼント」キャンペーンも行われている。

2つ目は、上で述べた年配者をターゲットとした取り組みの一方で、若者や新たな観光客を呼び込むために、別府市は「食観光」、とりわけ、最近注目を集めているB級グルメ観光にも取り組んでいる。もともと、別府市は市民によるまちづくりが盛んであり、市民の活動、NPO活動をサポートしているが、ボランティア団体「とり天Bメン」、「別府冷麺団」が収集した情報を基に、B級グルメ（とり天、冷麺）の地図を作製し、これらの認知度向上に努めている。

¹⁵ 「純金カード・プレゼント」キャンペーンについては、<http://www.kinyado.com/>（アクセス日：2011年4月20日）を参照。

¹⁶ ONSENという名称は、お湯と音楽の溢れる街（温泉と音泉）を意味している。このため、観光まちづくり課では、音泉タウン実行委員会が主催する月1回のライブ演奏会も支援している。

¹⁷ リバイバル家族旅行、リバイバル修学旅行（同窓会）、リバイバル新婚旅行をさす。

¹⁸ 別府市の1967年の宿泊客数287万人の内、その約5割にあたる139万人は修学旅行客であり、1970年代は多くの修学旅行生を集客した。

3. 広域観光：県北ブロックを中心に

別府市が構成メンバーとなっている広域観光を地域別に大別すると、県北ブロック、やまなみブロック、新東九州ブロックの3つがある。県北ブロックでは、瀬戸内海に面した大分県北部の8市町村（別府、中津、豊後高田、杵築、宇佐、国東の6市、日出町および姫島村）により構成される観光圏（「豊の国千年ロマン観光圏」）が2010年度に観光庁より認定され、2011年度から本格的な観光圏事業プロジェクトが予定されている。やまなみブロックでは、20年程前に別府市、由布市、九重町により「やまなみブロック観光協議会」が組織され、九州横断ルート地域、いわゆる「横ルート」の観光客誘致を目的とした宣伝活動が行われている。新東九州ブロックは、大分県中部から宮崎県北部にかけての地域であり、大分県の由布、別府、大分、臼杵、津久見、佐伯の6市および宮崎県の延岡市で構成され、2008年度に観光庁から認定された東九州観光圏である。

この3つの地域ブロックの現状をみると、観光宣伝こそ一緒に行われているが相互の連携がなされているわけではない。3カ所のヒアリング調査先では、話がつばら「豊の国千年ロマン観光圏」を巡って展開されたので、以下では、この観光圏（以下、県北観光圏と略称）について述べる。

まず、簡単に観光圏一般についてみておこう。観光庁は2008年度より観光圏整備法に基づく観光圏事業をスタートさせ、2008年度に16地域、2009年度に14地域、2010年度に15地域、併せて45地域を観光圏として認定している。観光圏とは、複数の観光地が連携し、観光地としての魅力を高め、2泊3日以上滞る型観光に対応できるような体制づくりを行う地域の集合体（観光エリア）である。九州には、県北観光圏以外に5つの観光圏（雲仙天草、阿蘇くじゅう、新東九州、平戸・佐世保・西海、玄界灘）が認定されている。

先にみたように、県北観光圏は2010年度に観光庁より認定された。観光圏認定申請の背後には九州新幹線の全線開通（2011年3月）への危機感と、それに対抗する事業¹⁹としての位置付けが与えられている。「豊の国の千年ロマン」という名称にもあるように、「千年の歴史を体感する旅」をコンセプトに、温泉と食（グルメ）を組み合わせた観光が提案されている。観光圏の各種事業・イベントや商品企画などは2011年度から本格化するが、その目玉となる事業の1例を以下にみておこう。

県北観光圏の事務局が別府市観光協会におかれていることから分かるように、この観光圏において中心的役割を果たすのは、日本有数の温泉地である別府温泉であり、ここから千年の時を巡る豊の国の旅が始まる。具体的には、第2節でみた別府八湯の旅（「別府八湯温泉道」）の広域観光版であり、2011年5月よりスタートする「別府八湯温泉道～豊の国千年ロマン編～」である²⁰。

¹⁹ 第2節(2)でみたように、「純金カード・プレゼント」も対抗事業として位置付けられている。

²⁰ 「豊の国千年ロマン観光圏」については、<http://www.millennium-roman.jp/>（アクセス日：2011年4月26日）参照。

これは、別府八湯温泉道に中津市、宇佐市、豊後高田市、国東市、杵築市、日出町、姫島村のそれぞれ1施設の温泉を加えた特別スタンプラリーである。

また、歴史や文化と並ぶ地域資源である自然景観を「道」に結びつけ、地域の観光振興や活性化に繋げようとする観光庁の事業に「日本風景街道」がある。2007年に登録が始まり、2010年8月現在で全国の119ルートが日本風景街道に登録されている。事務局では県北観光圏事業の一環として、圏内のルートの日本風景街道への登録申請を今後予定しているとのことであった。

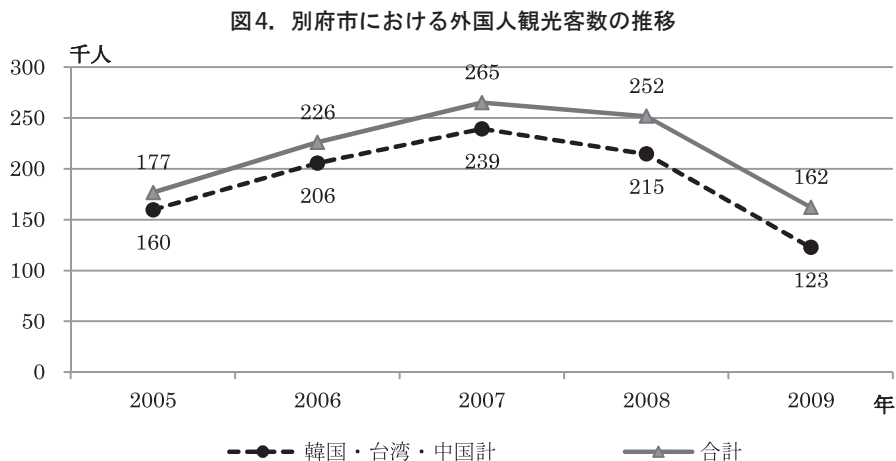
なお、九州新幹線の全線開通により大分県と同様の立地条件を持つ宮崎県の観光地との連携を促す可能性もヒアリングにおいては聞かれた。

4. その他

(1) 外国人観光客

ここ数年の外国人観光客の推移は図4²¹に示されている。2009年は金融危機や新型インフルエンザの影響で、対前年3割超の落ち込みを見せたが、2007年までは順調に増加し、2007年、2008年には年間25万人を超える外国人観光客が別府市を訪れている。外国人観光客の7割超が韓国からであり、韓国・台湾・中国（香港を含む）で全体の9割程を占めている。

外国人観光客増加の背後には、市によるインバウンド観光への取組みや、2000年4月の立命館アジア太平洋大学（APU）の開学がある。APUには世界の約90カ国から留学生とその家族が集まり、



²¹ 図4の元となった数値は、その他の国々も含め、付表2参照。

海外での観光地別府の宣伝やセールスに貢献している。また、留学生の中には、市内の旅館・ホテルでアルバイトをしたり、さらには就職したりするものまでおり、別府の外国人観光客増加に一定の役割を果たしている。

外国人観光客の受入れに関する活動をみると、パンフレットの作成（韓国語・中国語・英語）や外国語講座の開催（韓国語・中国語・英語）は、旅館ホテル組合、観光協会、商工会議所などで構成される観光施設連絡協議会が担当している。また、外国人団体客が多い旅館・ホテルなど10数軒で構成している外国人旅行者受入協議会では、ホームページの作成や市と連携して年に数回程度の韓国・中国・台湾を中心とした外国へのセールスを行っている。外国人旅行者受入協議会に加盟している宿泊施設の中には、ドルやウォンの両替サービスを行っている所もある。

外国人観光客を引きつける別府の魅力は多様な温泉にあるが、特に泥湯、砂湯、地獄温泉、鉄輪噴気泉、408本の湯けむりなどは人気が高い。また、温泉の魅力を前面に出して、バック・パッカーなどの外国人を直接のターゲットにしている旅館もある。欧米からの観光客はインターネットや旅番組から情報を収集して来るケースが増えており、直接のセールスに加えてインターネットやメディアなどの媒体による情報発信の重要性が今後高まることが予想される。

(2) 旅館再生

第1節でみたように、宿泊施設は過去15年ほどの間に半減し、現在（2010年）では110軒である。半減した内訳をみると、経営破綻を原因とするものが20軒ほど、それ以外は後継者難によるものである。

別府市内の北浜地区では、倒産した宿泊施設は解体され、駐車場や空き地などとしてそのままにされているが、それ以外の地区では倒産後に施設がリニューアルされ、新たな経営陣の下で運営されているものがいくつかある。例えば、50～60室程度の客室数をもつ中規模施設のケースでは、県内資本が買い取り、市内で4軒のリニューアル・オープンを実施済みである。また、客室数80室以上の大規模施設では、国内大手資本と外国資本が倒産施設をそれぞれ1軒買い取り、宿泊事業に進出してきた。なお、別府では、低価格を武器に全国にチェーン展開している事業者の宿泊施設はないが、国内大手資本の参入で平均宿泊単価が1,000円程度低下し、地場の宿泊業者に影響が出始めているとのことであった。

(3) ニュー・ツーリズム

観光地としての別府の最大の魅力は、豊富で多様な泉質をもつ温泉であるが、最近では温泉以外の観光資源開発の試み生まれつつある。

大分県に対してメディカル・ツーリズムに関する提案書を提起したことを契機に、2011年4月よ

り県の事業として鉄輪を中心にメディカル・ツーリズムに取り組むことになった。具体的には、外国人向けにはPET（ポジトロン断層法）検診，日本人向けには健康保持やリハビリを観光と組み合わせ、現代版「湯治」をアピールするものである。また、市内に10数軒ある湯治宿にも観光客の目が既に注がれ始めている。湯治宿は基本的に素泊まり・自炊旅館であり、宿泊料金も3,000円程度と手頃であり、観光協会への問い合わせも増えてきている。湯治という新たな観光スタイルは、宿泊施設にとっても平日の客室稼働率を高め、宿泊料金の引き下げという形で反映させることができる。そして、料金引き下げが湯治というニーズのより一層の掘り起こしにつながるといふ相乗効果も期待できよう。

(4) 市民参加

別府市においては、市役所や観光協会と市民が一体となって観光振興に取り組んでいることは、第1節で述べたが、ここで、市民参加のまちづくりについて取り上げる。

最初のまちづくり団体ができたのは1969年であるが、「平成8年8月8日」に別府八湯独立宣言が行われ、以後、市民が主体となったまちづくりが盛んになった。こういったまちづくり団体の連携・交流を深めるため、2004年に泉都まちづくりネットワークが発足し、2010年11月現在、198グループと134人の個人が加盟している。事務局は行政が担い、場所の提供とニュースの発行を行っている。豊富な温泉を背景に、別府市内には各町内が管理する温泉（共同浴場）があり、人々はその温泉につかりながら、自分達の住むまちについて話し合うという機会が多く、地域のリーダーを中心に、自発的にまちづくりに取り組む人が増えたようである。イベント系の企画・実施を担う観光協会は、こういった人たちからの新しい企画の提案に協力する形で、いろいろなイベントを行ってきたという経緯がある。また、観光まちづくり課も、こういったアイデアを出す市民を支援する形でまちづくりを進めており、市民と行政が一体となったまちづくりの手法は、他の自治体も参考にするとところがあり、視察に訪れる自治体も多い。

市民参加のまちづくりの代表例の1つとして、NPO法人ハットウ・オンパク²²が取り組んでいる別府八湯温泉泊覧会（以下、「オンパク」）があげられる。「オンパク」とは、別府八湯地域において温泉を核としたウェルネス産業を起こす事を目的とし、①地域の資源を活かした起業²³の支援、②参加住民を元気にし、生活の質の向上につなげること、③リピーター、長期滞在者の獲得及び

²² 宿泊施設のホテルニューツルタ、野上本館が中心となって活動している。

²³ 例えば、最近メディアで紹介され、注目を集めている「地獄蒸し」がある。別府市民にとっては当たり前の温泉の湯気を利用した蒸し料理が、観光客をひきつける魅力があることが分かり、「地獄蒸し工房鉄輪」という体験施設がつけられた。

市民との交流，を目指して活動している²⁴。つまり、「オンパク」は温泉を核とした地域と住民の活性化がまず第1の目的であり，それを通じた観光客の獲得が第2の目的である。2001年に別府市で始められたこの「オンパク」モデルは，住民が実施する体験型プログラムを利用した着地型観光による地域再生，という視点から全国でも注目を集めている。2010年には，一般社団法人ジャパン・オンパクが設立され，全国10カ所²⁵の取り組みを支援している。さらに，国際協力機構（JICA）も，この「オンパク」モデルをアジアに紹介し，活用しようとしている²⁶。

おわりに

観光振興を考える場合，行政，観光関連業者（ないし団体），市民の連携ないし一体化は不可欠である。この点で，別府の場合三者の役割分担は明確であるし，図1や前節(4)で述べたように，3者間の連携もスムーズに運んでいる。また，市民参加のまちづくりモデル，すなわち前節(4)で「オンパク」モデルと名付けたものは，いまや全国的な注目を集め，昨年4月には熱海を始めとした9つの有名観光地が参加する「ジャパン・オンパク」が設立されるまでになっている²⁷。こうした行政と市民が一体化した活動が，別府観光全体を下から支え，バブル崩壊以降観光客の減少に悩む国内有名観光地とは異なる別府観光の姿に繋がっているのではないだろうか。この点は，今回のヒアリング調査を通じてわれわれの印象に強く残るものであった。

²⁴ オンパクホームページによれば，「①地域の資源(温泉，自然環境，町並み，人材など)を活かした多彩なプログラムの提供を通じて，各種のサービス産業が成長すること，②オンパクに参加する事で住民が健康で前向きな暮らし(ウェルネスライフ)を送る事ができ，生活の質(QOL)の向上につながる事，③旅行者がオンパクに参加し，各種の体験や交流の機会を得る事で別府八湯のファンになっていただき，リピート化や長期滞在化を実現する事」を目指している。http://www.onpaku.jp/ (アクセス日：2011年4月25日)参照。

²⁵ 10カ所とは，はこだて湯の川オンパク，いわきフラオンパク，諏訪ズーラ，熱海オンたま，能登うみまん，総社みちくさこみち，宇部うべたん，久留間まち旅，都城ボンパク，別府オンパクである。

²⁶ 2010年12月10日付『静岡新聞』参照。

²⁷ 注25に同じ。

付表1. 別府市における観光客数

(単位：人)

	総観光客数	宿泊客数	日帰り客数
1967年	7,253,065	2,868,482	4,384,583
1968年	8,050,884	3,179,735	4,871,149
1969年	9,050,884	3,310,108	5,740,776
1970年	9,585,621	4,935,553	4,650,068
1971年	10,309,657	5,132,975	5,176,682
1972年	11,148,764	5,308,838	5,839,926
1973年	11,911,255	5,669,779	6,241,476
1974年	11,987,857	5,669,613	6,318,244
1975年	12,035,418	5,494,427	6,540,991
1976年	13,121,962	6,131,523	6,990,439
1977年	12,573,174	5,606,396	6,966,778
1978年	12,307,715	5,301,080	7,006,635
1979年	12,280,607	5,256,648	7,023,959
1980年	12,174,342	5,159,058	7,015,284
1981年	12,105,685	4,940,423	7,165,262
1982年	12,423,265	4,681,112	7,742,153
1983年	12,005,883	4,564,239	7,441,644
1984年	11,756,852	4,575,912	7,180,940
1985年	11,774,438	4,538,053	7,236,385
1986年	11,856,937	4,619,738	7,237,199
1987年	11,976,692	4,695,502	7,281,190
1988年	11,991,064	4,753,112	7,237,952
1989年	12,145,827	4,560,703	7,585,124
1990年	12,156,993	4,241,454	7,915,539
1991年	12,487,663	4,446,428	8,041,235
1992年	11,073,155	4,357,499	6,715,656
1993年	10,838,253	4,183,199	6,655,054
1994年	11,053,459	4,099,535	6,953,924
1995年	11,197,243	4,107,734	7,089,509
1996年	11,558,688	4,173,869	7,384,819
1997年	11,340,158	4,040,305	7,299,853
1998年	11,321,104	4,059,268	7,261,836
1999年	11,671,773	4,020,956	7,650,817
2000年	11,850,681	4,048,412	7,802,269
2001年	11,992,889	4,052,460	7,940,429
2002年	11,860,123	4,006,061	7,854,062
2003年	11,636,515	4,001,217	7,635,298
2004年	11,567,482	3,921,269	7,646,213
2005年	11,735,741	3,925,190	7,810,551
2006年	11,765,789	3,936,966	7,828,823
2007年	11,676,910	3,834,605	7,842,305
2008年	11,518,360	3,738,740	7,779,620
2009年	11,999,003	3,652,345	8,346,658

出所：別府市『平成21年観光動態要覧』

付表2. 別府市における外国人観光客数

(単位：人)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
アメリカ	3,863	4,519	4,017	5,761	4,586
ドイツ	1,751	2,114	2,572	2,564	3,664
イギリス	1,406	1,537	1,548	2,050	1,960
フランス	941	1,610	1,678	2,586	3,278
韓国	129,867	179,150	213,884	184,580	104,012
台湾	22,638	20,186	16,521	20,301	8,843
中国(含：香港)	7,174	6,195	8,923	9,704	9,726
タイ	1,305	970	2,022	5,646	4,670
シンガポール	647	1,320	2,367	3,022	3,163
オーストラリア	1,081	1,081	1,611	2,326	2,425
その他	5,968	7,331	10,044	13,144	15,795
合計	176,641	226,013	265,187	251,684	162,122

出所：別府市外国人旅行者受入協議会資料